

平成 15 年度第 2 回廃棄物減量等推進審議会議事録

平成 16 年 3 月 29 日午後 1 時 30 分～3 時 30 分

市役所 5 階全員協議会室

出席委員 坂崎会長、関谷副会長、寺尾委員、竹本委員、山谷委員、加藤委員、梶田委員、坂田委員、
硯見委員、土本委員

欠席委員 藤浪委員、渡辺委員、吉川委員

事務局 今井環境経済部長、河田環境課長、仙石、吉川

会長 本日は廃棄物処理手数料と生ごみ対策について市長から諮問を受け、ご審議願う。

(資料に基づき、事務局より説明)

<審議内容>

司 会 手数料の見直しは、不公平感をなくすことや、減量という目的を持っており、そのためには
どうすればよいかを議論していただく。

委 員 値上げは不法投棄と家庭での焼却が増えるのではと心配だ。負担率ではなく、納得できる値
段にしてほしい。50 円や 100 円では市民は納得しない。

委 員 ごみにかかる費用を袋代で賄いたいということか。

事務局 税金で処理すべきとの論議があるが、不公平感に対する救済がないといけないとの考え方も
ある。マイナスのインセンティブを感じてもらいたい。

現在のゴミ袋の値段は、収集経費の 1 / 4 で決めており、袋の収入はリサイクル基金に積み
立て、リサイクル推進のための経費に充てている。

委 員 財政的に今後やっていけないから値上げするのか。合併が白紙に戻ったとたん上げるとい
うのはどうか。

事務局 合併しなかったら 80 円になるという数字は出している。また、使用料・手数料の見直しを
3 年に 1 回行っており、今年はまだ見直しの年になっている。

三市一町の合併論議の中で、ゴミ袋の値段については、考え方がまったく異なり統一が取れ
ない部分だった。安い所で 7 円 (袋の原価)、高い所で 37 円というふうに分岐がある。他の
自治体では 50 円が多い。100 円のところもある。

平成 9 年に多治見市で有料化したときはごみ量が 14%程度減った。有料化により不法投棄が
極端に増えたわけではない。

委 員 プラスチックパックなどかさばるものは、かさを減らす指導をしてはどうか。

委 員 値上げということで方向は良いのでは。税金を充てている分と同じ額を袋の値段にすれば努
力した人に 50%還元したことになる。

事務局 別会計で扱い、生ごみ処理機や集団資源回収助成事業の財源とすることで努力した人に還元
することはできる。

委 員 財政が苦しいから値上げということか。不公平感があるということだが、家族の人数にもよ
るので受益者負担という考えは難しい。

委 員 最初にごみの回収が始まったときには有料だった。世帯の人数によりごみの値段が違って
いたと記憶している。

事務局 昭和 24 年から 47 年まで世帯人員で値段を決めていた。定額制と定量制の 2 とおりがあるが、

人数制にすると努力のしがいがない。

委員 リサイクルステーションの協力金をなくし、処理費に財源を回したらどうか。

事務局 ステーション管理を町内でお願いしている関係上なくすのは難しいのではないかと。

市が経費削減の努力をしないで値上げの議論できないが、人件費はかなり下げている。

委員 リサイクルの利益は？リサイクルすることで赤字になっているのなら分別しないほうがよいのではないかと。

事務局 11年度まで6分別だったが、12年度の23分別開始により6～7千万円余分に経費がかかるようになった。これに対し資源の売り払い収入は金属で3～4千万円程度しかない。容器包装リサイクル法は、自治体に収集義務を課しており、黒字になることはありえない。分別をやめるともっと赤字になる。燃やすごみが増えて炉の能力が不足し、処理ができなくなる。

委員 資源の販路拡大の方法を考えるべき。条例で独自の方法をとれないか。

事務局 現在でも市独自でやっている品目もある。ドイツやフランスのように事業所の負担でやっている国とは違う。

司会 時間もないので、生ごみの議論に入りたい。

事務局 中長期的な問題なので結論を出すのは難しいが、方向性だけは決めていきたい。

司会 メタンガス施設は京都などの事例もあるので、視察などもしていけるとよい。

委員 生ごみの水切りをきちんとするべき。

委員 堆肥化しても売るところがないのは、全国的な傾向のようだ。メタンガス化はメリットがあるのではないかと思うが何百億もかかるようでは困る。ペイできるかどうか。

事務局 ガス化炉は、1トン/日の処理で3～4千万円かかる。20トン/日と仮定すると6～8億円かかる計算になる。生ごみを炉に投入しなければコークスが削減できる。16年度中にいかに純度の高い生ごみを集めて処理できるかモデル地区をつくり実験することになっている。

委員 ごみを出さない啓発をすることがまず大事。環境効率と経済効率が一致していないことが根本的に問題だ。

委員 ゴミ袋は変わるか。

事務局 17年度には形状や材質を念頭に入れ袋を変えたい。

委員 値上げするのならゴミ袋の枚数を検討してほしい。

事務局 10枚単位くらいにする必要がある。

委員 値上げがごみ減量の啓発になればよい。

事務局 平成9年の有料化のときは非常に反発が強かった。

委員 消費税と同じで今はあきらめている。

委員 資料を見て事業系の生ごみがこれほどあるとは以外だった。燃料にするようにもって行かないといけない。また、段階的に値段を上げていかなければと思う。

司会 8月まで月1回のペースでどうか。値上げと生ごみを平行で行うこととする。

事務局 前回、陶器のリサイクルについて意見をいただいたが、陶器の分別回収は経費の問題とごみに出される度合いが少ないことから今年は見送った。今後も拠点回収ができないかどうか検討したい。首都圏等での回収の目的は販路拡大である。

次回は、4月26日（月）午後1:30～ 開催ということでお願いしたい。